

化粧単板の製法とその利用研究

鎌田正義 大西洋

〔目的〕

化粧単板の製作が困難とされている、イスノキについて切削の条件（刃先角、切削角、煮沸条件）について検討を行い、イスノキの特性を高度に生かした化粧単板の製作を研究し、その利用面の開発をはかる。

〔概要〕

イスノキは本邦産材中最も重硬な材であり、本県特産材として特色のある材料である。殊にその芯材は、緻密にして精、黒褐色の色肌は壁面材及び床材として珍重されている。この研究においては材料の高度利用の面からスライサー及びロータリー単板を製作し、内装材として活用すべく昨年より継続研究中のものである。

切削方法として、スライサー及びロータリー機による単板の製作について検討を行い、材の煮沸条件、

刃物の切削条件等により各種のデーターを製作、それらの条件のうち最も適当と考えられるものについて単板を試作しそれらの単板の芯材への接着方法について検討を行った。

イス材はその材質上、ロータリーによるものは乾燥に伴う収縮の為に厚み及び乾燥程度により接着については相当の経験が必要とする。又スライスにおいては、煮沸温度を充分に考慮する必要がある。

本場設置のスライサー及びロータリー機については、その性質上自ら限度があり目的達成の為に、尚多くの研究を必要とするが、すでに業界においても、これが実施化について極めて熱心であり、今後業界ともあらゆる部門において協力し、企業化を図る予定である。

県産未利用資源の開発研究（第一報）

奄美大島産材の性質

鎌田正義 山田式典
遠矢良太郎 樺山和実

〔目的〕

奄美地方に生育している樹木は、その種類も非常に多いが、現在までの利用状況をみるに、そのほとんどが、パルプ用材として消費されており、用材として利用されているものは、イタジイ、その他わずかなものであり、ほとんどの木材が、本土からの移入に頼っている有様である。これらパルプ用材として消費されている木材にも、その適切は用途を考えるとまだまだその利用範囲も拡大されるものと考えられる。従って、本研究においては、これら未利用材の材質を究明し、これら樹木のうちから、更に高度利用出来る樹木を開発し、地場木材産業振興に参与しようとするものである。

〔概要〕

今年度は、まず、奄美地方の樹木状況を適確に把握するために、群島全体の樹木の分布と種類の調査を行い、木本植物について、調査の結果をもとに112種類の樹木目録を作成した。これらの樹木中より、入手し易く、比較的有用と思われるシマタゴ、イジユ、ソコノキ、オキウラジロガン、モクマオ、リュウキユマツの6樹種を選定し、それぞれ材料を購入し、現在、製材歩止り試験、乾燥試験、材質に関する試験を続行又は、資材の整理中であり、次年度においては、加工性に関する試験、製品性に関する試験を行い、それぞれ結論を得る予定である。この他の樹種についても、今後適当な機会において更にその効果的な利用の方法をみい出すべく検討を行っていく予定である。